様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	総合理工学科先進科学系	夜・通信	0	2	9	11	7	
	総合理工学科機械システム系	夜・通信			17	19	7	
	総合理工学科電気電子システム系	夜・通信			6	8	7	
	総合理工学科情報システム系	夜・通信			8	10	7	
	機械・制御システム工学専攻	夜・通信		11	10	21	7	
	電子・情報システム工学専攻	夜・通信			0	11	7	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 https://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouiku/syllabus.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	国立高等専門学校　理事（2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）	2026 年 4 月 1 日～2029 年 3 月 31 日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026 年 4 月 1 日～2026 年 10 月 15 日	総務
非常勤	東京大学教授	2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026 年 4 月 1 日～2028 年 3 月 31 日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は 2024 年 3 月 31 日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 国立高専統一の WEB シラバスシステムに基づき、統一の様式に則り、授業形態・到達目標・ルーブリック（成績評価基準表)・授業科目の概要や内容、方法、注意点・授業計画・評価割合を記載している。例年、前年１２月～翌年２月にかけてシラバスを作成しており、作成完了後、教務委員会にて確認の上、年度初めの４月１日にインターネットにより公開している。

授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 https://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouiku/syllabus.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) WEB シラバスに基づき、試験やレポートおよび卒業研究等の評価基準により、各授業科目において、単位を認定している。また、全体の方針については、規則集の「学則」および「津山工業高等専門学校の学業成績の評価並びに各学年の課程修了及び卒業の認定に関する規程」により厳正に実施している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

成績評価については、本科においては、定期試験を４回実施後、専攻科においては前期、後期終了後に、各科目の成績を集計し、全学生へ通知している。また、客観的な成績指標として平均点及びＧＰＡを算出している。

・平均点算出方法

点数の付いた科目の合計／科目数

・ＧＰＡ算出方法

【評価ポイント】

評価４　：90～100 点
評価３　：80～ 89 点
評価２　：70～ 79 点
評価１　：60～ 69 点

【計算式】

{（「評価４の単位数」×４）+（「評価３の単位数」×３）+（「評価２の単位数」×２）+（「評価１の単位数」×１）}／総単位数

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.tsuyama-ct.ac.jp/images/kyouiku/seisekihyouka_0725.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

本校規則集の「学則」および「津山工業高等専門学校の学業成績の評価並びに各学年の課程修了及び卒業の認定に関する規程」に記載している。後者規則の第 21 条において、本科の「卒業の認定は、第５学年の課程を修了した者について校長が教員会議に諮って行う。」と示している。その他、同規則に各学年の修了要件も記載している。専攻科の修了は、学則の第 35 条において、「校長は、所定の科目を修得したものに対し修了を認定し、修了証書を授与する。」と記載している。

上記に基づき、本科においては、教員会議に諮って、卒業を認定している。また、専攻科においては、専攻科運営委員会で課程の修了を判定し、校長が課程の修了を認定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	本校ホームページにより学則、規則を公表している (https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyou/kitei.html) (https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/diploma-policy.html)

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	津山工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyouhoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告（書）	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和８年度　）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）
中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：令和６年度から令和 10 年度）
公表方法：https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf （https://www.kosen-k.go.jp/release/independence）

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaibu/tenken.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　総合理工学科　先進科学系
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouiku/mokuhyou.html）
（概要） 確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。 科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成 1.教養豊かな実践的人間力の養成 2.確かな基礎科学の知識修得 3.基盤となる専門性の深化 4.分野横断的な融合力の育成 5.グローバルな視点と社会性の養成 6.課題探求・解決能力の育成 7.コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/diploma-policy.html）
（概要） 共通教育および先進科学に関する基礎・専門教育を受けることにより以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。 （１）修得している知識に基づきながら、先進科学に関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決できる。【人間力】 （２）先進科学の基礎となる数学・物理・化学・生物等の知識を修得している。【基礎学力】 （３）先進科学における基礎的および専門的な知識を修得し、それらを数学・物理科学あるいは物質・生命科学の分野に応用できる。【専門性】 （４）他の専門分野の研究者および技術者と協力しながら、先進科学の専門分野と他の科学技術分野とを融合した新たな企画提案ができる。【融合力】 （５）グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題および異文化を理解できる。【国際性】 （６）複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策を提示できる。【行動力】 （７）実施した検討内容や研究内容を正しく整理し発表する能力を修得し、および他者と議論し共有できる。【自己表現力】
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/cu-policy.html）
（概要） 学習教育目標に定める「科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成」を行うために、全学共通科目、基盤専門系科目（全系基盤共通科目、系必履修科目）、選択プログラム科目、融合科目および選択科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。先進科学系では、先進科学の教育・研究を志す人材、理学の素養が豊かな技術者を養成するために、「生命から宇宙まで幅の広い科学教育」をスローガンとして掲げ、数学、物理科学、化学、生命科学などを基軸とする理学とその応用を支える基礎工学について統合的かつ融合的に学べるカリキュラムを設定している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/a-policy.html）

（概要）
総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。

1.ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人
2.理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人
3.自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人
4.日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人

学部等名　総合理工学科　機械システム系

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouiku/mokuhyou.html）

（概要）
確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。

科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成

1.教養豊かな実践的人間力の養成
2.確かな基礎科学の知識修得
3.基盤となる専門性の深化
4.分野横断的な融合力の育成
5.グローバルな視点と社会性の養成
6.課題探求・解決能力の育成
7.コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/diploma-policy.html）

（概要）
共通教育および機械システムに関する基礎・専門教育を受けることにより以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。

（１）修得している知識に基づきながら、機械システムに関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決できる。【人間力】
（２）工学の基礎となる数学・物理・化学等の知識を修得している。【基礎学力】
（３）機械工学における基礎的および専門的な知識を修得し、それらを機械設計あるいはロボティクスの分野に応用できる。【専門性】
（４）他の専門分野の技術者等と協力しながら機械システムの分野と他の技術分野との融合により課題の解決や新たな企画提案ができる。【融合力】
（５）グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題および異文化を理解できる。【国際性】
（６）複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策を提示できる。【行動力】
（７）実施した検討内容や研究内容を正しく整理し発表する能力を修得し、他者と議論し共有できる。【自己表現力】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/cu-policy.html）

（概要）
学習教育目標に定める「科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成」を行うために、全学共通科目、基盤専門系科目（全系基盤共通科目、系必履修科目）、選択プログラム科目、融合科目および選択科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。機械システム系では、「次世代の産業社会を担う機械システム技術者の養成」を目指して、機械システムの本質と他の技術分野との融合による課題探求・解決を学ぶことができるカリキュラムを設定している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/a-policy.html）

（概要）
総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。
1.ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人
2.理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人
3.自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人
4.日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人

学部等名　総合理工学科　電気電子システム系

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouiku/mokuhyou.html）

（概要）
確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。
科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成
1.教養豊かな実践的人間力の養成
2.確かな基礎科学の知識修得
3.基盤となる専門性の深化
4.分野横断的な融合力の育成
5.グローバルな視点と社会性の養成
6.課題探求・解決能力の育成
7.コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/diploma-policy.html）

（概要）
共通教育および電気電子システムに関する基礎・専門教育を受けることにより以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。
（１）修得している知識に基づきながら、電気電子システムに関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決できる。【人間力】
（２）工学の基礎となる数学・物理・化学等の知識を修得している。【基礎学力】
（３）電気電子工学における基礎的および専門的な知識を修得し、それらをエレクトロニクスあるいは環境エネルギーの分野に応用できる。【専門性】
（４）他の専門分野の技術者等と協力しながら電気電子システムの分野と他の技術分野との融合により課題の解決や新たな企画提案ができる。【融合力】
（５）グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題および異文化を理解できる。【国際性】
（６）複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策

を提示できる。【行動力】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/cu-policy.html）

（概要）
学習教育目標に定める「科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成」を行うために、全学共通科目、基盤専門系科目（全系基盤共通科目、系必履修科目）、選択プログラム科目、融合科目および選択科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。電気電子システム系では「環境エネルギー・エレクトロニクス社会を担う技術者の養成」を目指して、電気電子システムの本質と他の技術分野との融合による課題探求・解決を学ぶことができるカリキュラムを設定している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/a-policy.html）

（概要）
総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。
1.ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人
2.理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人
3.自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人
4.日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人

学部等名　総合理工学科　情報システム系

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouiku/mokuhyou.html）

（概要）
確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成するという教育理念のもと、以下の学習教育目標を掲げている。
科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成
1.教養豊かな実践的人間力の養成
2.確かな基礎科学の知識修得
3.基盤となる専門性の深化
4.分野横断的な融合力の育成
5.グローバルな視点と社会性の養成
6.課題探求・解決能力の育成
7.コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/diploma-policy.html）

（概要）
共通教育および情報システム系に関する基礎・専門教育を受けることにより以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に準学士の称号を授与し卒業を認める。
（１）修得している知識に基づきながら、情報システムに関わる課題に対して、他の技術者等と協力し解決できる。【人間力】
（２）工学の基礎となる数学・物理・化学等の知識を修得している。【基礎学力】
（３）情報工学における基礎的および専門的な知識を修得し、それらをネットワークあるいはICTの分野に応用できる。【専門性】
（４）他の専門分野の技術者等と協力しながら情報システムの分野と他の技術分野との融合により課題の解決や新たな企画提案ができる。【融合力】

（５）グローバル社会に貢献できる国際性を身につけ、社会の抱える様々な問題および異文化を理解できる。【国際性】
（６）複雑・多様化する科学技術に対して積極的に課題の探求を行い、具体的な解決策を提示できる。【行動力】
（７）実施した検討内容や研究内容を正しく整理し発表する能力を修得し、他者と議論し共有できる。【自己表現力】

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/cu-policy.html）

（概要）
学習教育目標に定める「科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者の養成」を行うために、全学共通科目、基盤専門系科目（全系基盤共通科目、系必履修科目）、選択プログラム科目、融合科目および選択科目で構成される体系的なカリキュラムを提供している。情報システム系では「情報システムを統合的に理解し、設計・構築・保守運用のできる技術者の養成」を目指して、情報システムの本質と他の技術分野との融合による課題探求・解決を学ぶことができるカリキュラムを設定している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/sogoriko/a-policy.html）

（概要）
総合理工学科では、教育理念に基づいた人材の育成を目指しており、以下のアドミッションポリシーに示される人で、しかも強い意志を持って学ぼうとする志の高い人を積極的に受け入れたいと考えている。
1.ものづくりに興味があり、地域・社会に貢献したいと考えている人
2.理数系・工学等に興味があり、それらの分野の勉強を深めたいと考えている人
3.自らアイデアを出しそれを実現、または他の人と協力して実現したいと考えている人
4.日本に限らず、世界でも自分の力を発揮したいと考えている人

学部等名　専攻科　機械・制御システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/mokuhyou.html）

（概要）
本科５年間の一貫教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目標としている。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/diploma-policy.html）

（概要）
教育課程により以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に修了を認める。
（１）数学、物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め、人文・社会科学に関する知見を広めて、機械・制御システム工学に関する基礎学力として応用できる。
（２）次の専門技術分野の知識を修得し、機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる。
材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産・管理、機械とシステムなどの専門技術分野および数学・物理分野、化学・バイオの技術分野
（３）特別実験の実践的学習を通じて、専攻分野に関連する知識理解を深化させると同時に、実験を遂行し、データを解析・考察できる。
（４）特別研究を自主的、積極的に探究・推進することにより、技術者として必須の問題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者と

の交流を通じて、プレゼンテーションができ、コミュニケーションができる。
さらに、技術者倫理に関する特別講義の受講や工学倫理の科目での学習を通じて、広く技術者倫理を理解できる。校外実習・学協会への参加や先端技術特別講義の科目での学習を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/cu-policy.html）

（概要）
専攻科の教育課程では、大きく分けると一般・専門共通科目と専門科目を修得する。
【一般・専門共通科目】
実践英語・国際文化論・哲学・社会科学などの一般科目と、数学・物理・生物・環境・実験法などの基礎科学と情報処理技術の各分野、さらに工学倫理や先端技術特別講義の科目について学習する。
【専門科目】
材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産・管理、機械とシステムなどの専門技術分野および数学・物理分野、化学・バイオの技術分野を学習する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/a-policy.html）

（概要）
専攻科では、本科における教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的で実践的な技術者や研究者を JABEE 認定教育プログラムの基に養成するため、以下に示す能力、適性（又は資質）を持つ人を受け入れたいと考えている。
・技術者への志を強く持ち、向上心のある人
・技術者教育プログラムを修める強い意志のある人
・工学の基本的な知識を修得した人
・工学に関する知識に加え，これらを活用するための思考力・判断力・表現力等の能力を身につけた実践的技術者を目指すことを希望している人
・主体性をもって多様な人々と協働・探究し，豊かな人間社会の発展に貢献したいと考えている人

学部等名　専攻科　電子・情報システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/mokuhyou.html）

（概要）
本科５年間の一貫教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目標としている。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/diploma-policy.html）

（概要）
教育課程により以下の項目に掲げる能力を身につけ、設定した所定の単位を修得した学生に修了を認める。
（１）数学・物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め、電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用できる。
（２）次の専門技術分野の知識を修得し、機械やシステムの設計・製作・運用に活用できる。
電気・電子、情報・制御に関する専門技術分野
（３）特別実験の実践的学習を通じて、基礎学科に関連する知識理解を深化させると同時に、実験の遂行能力・データを解析・考察できる。
（４）特別研究を自主的、積極的に探究・推進することにより、技術者として必須の問

題発見能力と課題解決能力、すなわち創造的な成果を生み出すデザイン能力、研究能力を身につけるとともに、研究結果を学会などで発表し、他の研究者や技術者との交流を通じて、プレゼンテーションができ、コミュニケーションができる。 　さらに、技術者倫理に関する特別講義の受講や工学倫理の科目での学習を通じて、広く技術者倫理を理解できる。校外実習・学協会への参加や先端技術特別講義の科目での学習を通じて、地域社会との連携を図るとともに、地球的視点からものを見ることの大切さを理解できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/cu-policy.html）
（概要） 専攻科の教育課程では、大きく分けると一般・専門共通科目と専門科目を修得する。 【一般・専門共通科目】 実践英語・国際文化論・哲学・社会科学などの一般科目と、数学・物理・生物・環境・実験法などの基礎科学と情報処理技術の各分野、さらに工学倫理や先端技術特別講義の科目について学習する。 【専門科目】 電気・電子と情報・制御に関する各分野を学習する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/senkou/a-policy.html）
（概要） 専攻科では、本科における教育の成果を活かし、さらに高度な専門知識と研究開発能力を身につけた創造的で実践的な技術者や研究者を JABEE 認定教育プログラムの基に養成するため、以下に示す能力、適性（又は資質）を持つ人を受け入れたいと考えている。 ・技術者への志を強く持ち、向上心のある人 ・技術者教育プログラムを修める強い意志のある人 ・工学の基本的な知識を修得した人 ・工学に関する知識に加え，これらを活用するための思考力・判断力・表現力等の能力を身につけた実践的技術者を目指すことを希望している人 ・主体性をもって多様な人々と協働・探究し，豊かな人間社会の発展に貢献したいと考えている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyou/soshiki.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	1 人	―					1 人
総合理工学科	―	26 人	22 人	6 人	6 人	0 人	60 人
機械・制御システム工学専攻	―	16 人	9 人	1 人	3 人	0 人	29 人
電子・情報システム工学専攻	―	18 人	7 人	3 人	2 人	0 人	30 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	23 人	23 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：ホームページ（教員一覧） ・先進科学系 https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/SCC/senshin-kyouin.html ・機械システム系 https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/MSC/kikai-kyouin.html ・電気電子システム系 https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/EEC/denki-kyouin.html ・情報システム系 https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gakka/CIC/jyouhou-kyouin.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
総合理工学科	160 人	166 人	103.8%	800 人	836 人	104.5%	若干名	5 人
合計	160 人	166 人	103.8%	800 人	836 人	104.5%	若干名	5 人
機械・制御システム工学専攻	8 人	5 人	62.5%	16 人	16 人	100%	0 人	0 人
電子・情報システム工学専攻	8 人	13 人	162.5%	16 人	24 人	150%	0 人	0 人
合計	16 人	18 人	112.5%	32 人	40 人	125%	0 人	0 人

（備考）

b.卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
総合理工学科	163 人 （100%）	50 人 （30.7%）	109 人 （66.9%）	4 人 （2.4%）
情報工学科	0 人 （0%）	0 人 （0%）	0 人 （0%）	0 人 （0%）
合計	163 人 （100%）	50 人 （30.7%）	109 人 （66.9%）	4 人 （2.4%）
機械・制御システム工学専攻	6 人 （100%）	1 人 （16.7%）	5 人 （83.3%）	0 人 （0%）
電子・情報システム工学専攻	12 人 （100%）	0 人 （0%）	12 人 （100%）	0 人 （0%）
合計	18 人 （100%）	1 人 （5.6%）	17 人 （94.4%）	0 人 （0%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

【進学先】

長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、北見工業大学、多摩美術大学、筑波大学、大阪国際工科専門職大学、京都工芸繊維大学、三重大学、岡山大学、島根大学、広島大学、香川大学、高知大学、大分大学、玉野総合医療専門学校、長岡技術科学大学大学院

【就職先】

花王株式会社、一般社団法人日本血液製剤機構、内山工業株式会社、ENEOS 株式会社、株式会社タマディック、株式会社日立ビルシステム、富士フイルム株式会社、株式会社日本製鋼所、ユアサシステム機器株式会社、大宮工業株式会社、株式会社ワードシステム、株式会社ボールド、株式会社サイバーエージェント、株式会社日立情報通信エンジニアリング、株式会社クラレ、コベルコ建機株式会社、ナカシマヘルスフォース株式会社、ジャパン マリンユナイテッド株式会社、曙ブレーキ工業株式会社、株式会社日立ハイテクフィールディング、株式会社トップエンジニアリング、株式会社ピューズ、株式会社メンバーズ、アイテック阪急阪神株式会社、西日本旅客鉄道株式会社

（備考）

c.修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　%）	人 （　%）	人 （　%）	人 （　%）
	人 （100%）	人 （　%）	人 （　%）	人 （　%）	人 （　%）
合計	人 （100%）	人 （　%）	人 （　%）	人 （　%）	人 （　%）

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
高専ＷＥＢシラバスにより、本校の授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法を記載し、公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
本校規則集の「学則」および「津山工業高等専門学校の学業成績の評価並びに各学年の課程修了及び卒業の認定に関する規程」に記載している。
後者規則の第 21 条において、本科の「卒業の認定は、第５学年の課程を修了した者について校長が教員会議に諮って行う。」と示している。その他、同規則に各学年の修了要件も記載している。専攻科の修了は、学則の第 35 条において、「校長は、所定の科目を修得したものに対し修了を認定し、修了証書を授与する。」と記載している。
上記に基づき、本科においては、教員会議に諮って、卒業を認定している。また、専攻科においては、専攻科運営委員会で課程の修了を判定し、校長が課程の修了を認定している。

学部名	学科名		卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	総合理工学科	先進科学系	167 単位	有・無	単位
		機械システム系	167 単位	有・無	単位
		電気電子システム系	167 単位	有・無	単位
		情報システム系	167 単位	有・無	単位
	専攻科	機械・制御システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
		電子・情報システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）			公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）			公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学校要覧 P60～P61
HP（https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyou/youran.html）

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	総合理工学科	234,600 円	84,600 円	約 80,000～260,100 円	教科書代　約 50,000 円 後援会費　24,000 円 後援会入会金　10,000 円（編入生のみ） 学生会費　6,000 円 寄宿料　8,400～9,600 円（寮生のみ） 寮費　154,500 円（寮生のみ） 寮生会費　1,000 円（寮生のみ） 寮生会入会金　1,000 円（編入寮生のみ） 寮後援会費　4,000 円（寮生のみ）
	機械・制御システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	約 54,000～234,100 円	教科書代　約 30,000 円 後援会費　24,000 円 後援会入会金　10,000 円（他高専からの入学者のみ） 寄宿料　8,400～9,600 円（寮生のみ） 寮費　154,500 円（寮生のみ） 寮生会費　1,000 円（寮生のみ） 寮生会入会金　1,000 円（寮生のみ、他高専からの入学者のみ） 寮後援会費　4,000 円（寮生のみ）
	電子・情報システム工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 総合支援センターを設置し、学生生活や学習場面で困り感のある学生を支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 各系において卒業生後援を含めた就職・進学ガイダンスを年１回開催することを基本とし、就職希望者に対しては就活準備セミナーや会社説明会を、進学希望者に対しては技科大ガイダンスを開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 総合支援センターを設置し、様々な問題の相談に対して、必要に応じてカウンセラー室及び保健室等と連携して、適切な助言および支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：
学校要覧（https://www.tsuyama-ct.ac.jp/gaiyou/youran.html）
シラバス（https://www.tsuyama-ct.ac.jp/kyouiku/syllabus.html）
学修成果（https://www.tsuyama-ct.ac.jp/images/gaiyou/kitei/0402_02seisekir3.pdf）
費用（https://www.tsuyama-ct.ac.jp/keihi/keihi.html）
修学支援（https://www.tsuyama-ct.ac.jp/honkou/shisetsu/soudan.htm）

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	G133110109770
学校名（○○大学 等）	津山工業高等専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		１０９人（　８４）人	１０４人（　８１）人	－人（　－　）人
内訳	第Ⅰ区分	２０人	１８人	
	（うち多子世帯）	－	－	
	第Ⅱ区分	１１人	１２人	
	（うち多子世帯）	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	－	－	
	第Ⅳ区分（理工農）	０人	０人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	２８人	２５人	
	区分外（多子世帯）	４２人	４３人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（　－　）人
合計（年間）				１１４人（　８７）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	０人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	０人	－
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	０人	０人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	０人	０人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	０人	０人
計	人	０人	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	０人	後半期	０人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	０人
３月以上の停学	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	０人
訓告	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	０人	０人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	人	０人	０人
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	－	－
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	０人	０人
計	人	－	－
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。